

横綱若ノ嶋は、春ノ翔の休場で一人横綱となり、土俵を締める役割を担わなくてはならない。八日目に12勝6敗と大きくリードしている白閃光と対戦し、若ノ嶋らしき前へ出る相撲で勝つと九日目は関脇鹿富士と対戦。

「悪いけど、若ノ嶋に勝っちゃう気がするよ」と鹿賀乃戸親方。対戦成績でも、ここ2場所は鹿富士が勝っている。「今場所の若ノ嶋は相手に差される相撲が多いからなあ」と勝間田親方が言うとおりの、この一番も鹿富士に差されて寄り切りられた。



若ノ嶋○(寄り切り) ●白閃光

「こんな相撲ではこれ以上取るの難しい」と錦風親方が十日目からの休場を申し出た。十日目と千秋楽は優勝を争う両大関との対戦が予定されていただけに残念な気がするがやむを得ない決断だろう。

関脇鹿富士は四日目の3連敗があったが、七日目に春ノ翔を休場に追い込むと九日目に若ノ嶋を休場に突き落す6勝目を上げて、3場所連続の横綱キラーぶりを発揮。先ずは関脇の座を守った。「8番勝って大関候補に名乗りを上げたいね」と意気込む鹿賀乃戸親方だった。



鹿富士○(寄り切り) ●春ノ翔

鹿富士は先々場所三日目に美空富士から金星を挙げて以来、四日目若ノ嶋、記憶に新しい先場所初日からの横綱3タテ、そして今場所の綱連破と対横綱戦7連勝とし、西ノ海が第50回53回にかけて辰輝灘と綱錦相手に達成した6連勝(不戦勝を除く)を43年ぶりに破った。

八日目まで6勝2敗と好調の小結鬼ヶ嶽は九日目に平幕で1敗の西神門と対戦。鬼嶽有利との周囲の予想を覆して、西神門が2敗を守り優勝圏内に残った。

今場所も残すところ、あと2日。若ノ嶋と春ノ翔の両横綱の休場は寂しいが、千代鈴が十日目にも優勝を決めようかという勢いだ。このまま全勝優勝して同時に横綱昇進を手の中にするのか？それとも想像にしない自分でん返しがあがるのか？楽しみ千秋楽は12月10日に開催予定だ。乞うご期待！ (錦風)

十両は桃洲駒波蜜国が2敗

五日目まで全勝の桃乃洲と駒波に土が付いて勝ちっぱなしが消えて七日目を終った時点で桃乃洲と蜜国の二人が1敗で先頭に立った。中日に桃乃洲は蜜国に寄り切られて全勝を止められたが、七日目に駒波を得意の押し倒して破って勝ち越しを決めた。

かたや、ようやく2場所目にして十両の土俵にも馴染んできた蜜国は、桃乃洲の全勝を止めるの七日目に同じく1敗の御嶽灘と対戦。御嶽灘は同部屋の徳ノ富士が苦戦を強いられ、存在感を見せたい形である中、代わる形で、ここで1敗対決を引き落とし、6勝目を上げた。



御岳灘●(引き落とし) ○蜜国



駒波●(押し倒し) ○桃乃洲

2敗で追いかけるのが黒雲海、葵盛、駒波、御嶽灘となつて八、九日目に勝って臨んだ九日、先に蜜国が渡海と同一番。ここは着実に勝って1敗をキープしたい蜜国だったが、渡海のうまい攻めに寄り切られて2敗に後退。これで桃乃洲が御嶽灘に勝てば単独トップに立つところ。しかし、立ち合いかから御嶽灘に右攻めを封じられあっさり左差しを許すであっけなく土俵を割ってしまった。

チャンスが巡ってきたのは駒波。中日、七日目に連敗して一歩後退していたが、二人が負けたことにより再度優勝争いの先頭に加わるとあり気合を入れ直す。慎重に英風と葵盛とともに押し倒しに下して再び2敗で二人に並んだ。

九日目を終えた結果、2敗は桃乃洲、駒波、蜜国の3人、3敗で剣将、黒雲海、渡海、御嶽灘の4人となり、優勝争いはこの7人に絞られたと言つてよさそう。

上位陣の昇進争いでは二枚目の剣将が勝ち越しを決めて現時点では一番手。桜吹雪も連勝で白星先行と盛り返し、残りの2日星を伸ばせば可能性が出てきそう。東西筆頭の二人が負け越しただけに、上位の争いも熾烈になってくる。

幕下は春日根勢二人が全勝

一方、場所前から注目を集めてきた徳ノ富士が七日目まで3連敗となり負け越しで早々と陥落が決まりました。桐壺親方が期待をかけて送り込んだ徳ノ富士だったが、期待に沿う相撲が取れず幕下から再起をかけることとなった。(勝間田)

優勝で十両昇進を狙う鶴ノ里は播磨富士と椿富士の桐壺コンビを撃破してストリート給金。龍不動に次ぐ播磨屋部屋3人目の関取輩出に向け残り2日が正念場。何とかあと一つ白星を積み上げて4勝目をあげておきたいところだ。

西旭は三日目に先場所優勝の磯若の右攻めを凌ぎ切つて寄り切りで勝つて勝ち越し。四日目は鶴ノ里との対戦が組まれそうだが熱戦が期待される。

そして今場所は磯ノ海部屋から磯若に代わって磯蜜が4強に名乗りを上げてきた。三鷹と小田を寄り切りに下し磯ノ海部屋2場所連続の優勝に向けて磯蜜に親方も期待をよせる。その磯蜜と対戦が組まれる猿飛は、先場所からの連勝を8に伸ばせば幕下でも優勝を伺う勢いだ。三日間とも香具山勢との対戦を制して3連勝とした。

四日目は最初に磯蜜と猿飛が対戦。猿飛は三日目まで安定した左差しの相撲を見せておられ、磯蜜もここまで全寄り切り勝っている。だがこれは体力での取り猿飛がこゝに力をつけている口とは異なり右から攻める相撲を見せ押し倒して勝負を決めた。

次に鶴ノ里と西旭戦。これで西旭が勝つようだとややこしくなる展開になるが、その懸念が的中し西旭が鶴ノ里をこちらも押し倒して破つて4連勝とした。(山里)

三段目、序の口

三段目は徳ノ川と磐若、序二段は綱櫻と碧錦、序の口は下山田が4連勝を果した。

三段目では徳ノ川が虹ヶ谷を下し、一場所での幕下復帰を目指し、同じく4連勝の磐若との決戦に臨む。また序二段では桐壺道場で稽古を積んだ新鋭、松ヶ神部屋の碧錦が白星を重ね、優勝を賭けて綱櫻に挑む。



徳泉●(寄り切り) ○碧錦



鶴ノ里●(押し倒し) ○西旭



猿飛○(押し倒し) ●磯蜜



下山田○(寄り切り) ●大友

序の口では八重垣部屋のベテラン下山田が4連勝。育成会

最年長の優勝記録の達成なるか興味は尽きない。(鹿賀乃戸)